

4月、防犯の前提を問い直す。

「住宅への侵入は増え、捕まらない。」

住宅侵入“増加”と検挙“減少”が示す犯罪構造の変化

4月、新生活が始まるこの季節。住まいの防犯を取り巻く環境に、静かな変化が起きています。

2026年2月に公表された警察庁の犯罪統計では、**住宅侵入の認知件数は増加する一方で検挙数は減少。**

今、「侵入は増えるのに、捕まりにくい」という状況が生まれています。

この背景にあるのは、犯罪構造の変化。

——今回は、侵入増加と検挙減少の背景を読み解き、新生活が始まる4月に見直すべき防犯の視点を整理します。

住宅対象の侵入盗における認知数と検挙数の比較



警察庁「犯罪統計資料令和7年1～12月【確定値】」をもとに作成

犯罪構造の変化

■“地域常習犯型”から“流動型”へ

従来の侵入犯罪は、地域内で活動する常習犯が中心でした。

しかし現在は、「**実行役の流動化**」、「**短時間犯行**」、「**広域移動**」といった特徴が見られます。

令和7年警察白書*1によると、SNSなどを通じて匿名の実行役を募集する「匿名・流動型犯罪グループ」の存在が指摘されており、従来とは異なる犯罪構造が広がりつつあるとされています。

■車両盗難にも広がる「流動型犯罪」

こうした犯罪の変化は、住宅侵入だけではなく。

警察庁生活安全企画課*2によると、車両盗難でも、SNSで実行役を募集する組織的な犯行が指摘されています。また、日本損害保険協会の統計*3でも、昨年1年間の支払保険金の総額が約82億円になる等、車両盗難は依然として高い水準で発生していることがわかります。

住宅侵入と車両盗難。対象は異なりますが、共通しているのは「**短時間・広域・匿名型**」へ**犯罪構造が変化している**ことです。つまり防犯は、「**住宅だけ**」ではなく「**生活空間全体**」を守る発想が重要になっています。

*1：警察庁「令和7年警察白書 特集 SNSを取り巻く犯罪と警察の取り組み」

*2：警察庁生活安全企画課「自動車盗難等の発生状況等について」

*3：日本損害保険協会「第27回 自動車盗難事故実態調査結果」

	従来（地域常習犯型）	現在（流動型）
実行犯	単独・少人数 固定的な関係	匿名・流動的 SNSで募集
滞在時間	長時間侵入 (物色・破壊)	短時間・即離脱 (役割分担)
組織構造	地縁・血縁 上下関係が明確	分断構造 指示役と実行役が分離
追跡難易度	比較的容易 (物証から特定しやすい)	困難 (指示役の特定が難しい)

報道が映す、侵入のリアル

事例1) 空き家侵入

全国で空き家を狙った侵入窃盗が相次いでいます。

売却予定住宅や、施設入所により無人となった住宅など、「**管理が薄く見える状態**」が狙われやすい傾向があります。警察庁「[令和7年の犯罪情勢](#)」によると、**2025年の空き家への侵入認知件数は1万件を超えています**。

北海道では、施設入所中の住宅に侵入される事件が発生。空き家に侵入犯が住み着いてしまうケースもあるようです。



事例2) 短時間侵入

深夜から早朝、就寝中を狙った忍び込み。窓ガラス破壊による短時間侵入も増えています。

生活時間の固定化や不在時間の可視化は、犯行側にとって“**読みやすい情報**”になります。

埼玉県では、一般住宅10軒で深夜から早朝にかけて窓ガラスが割られ、現金137万円が盗まれる事件が発生しました。



事例3) 闇バイト型侵入

SNSを通じて実行役を募る事件も発生しています。

地域に馴染みのない実行役は、引っ越しが多い地域では違和感として認識されにくい側面があります。

茨城県では、SNSで募集された闇バイトの実行役3人が民家に押し入る事件が発生しました。



事例4) 宅配を装う侵入未遂

宅配や点検を装って住宅に接近する手口は、近年増加している侵入型犯罪の一つです。生活の隙や油断を突く犯行として、注意が呼びかけられています。

大阪府では、宅配業者を装った男が住宅を訪れ、住人に刃物のようなものを突き付ける事件が発生しました。



侵入が捕まりにくくなった「3つの理由」



元警視庁公安部
防犯コンサルタント
松丸 俊彦 氏

Secual顧問の松丸氏は、検挙が難しくなっている背景として次の3点を指摘します。

1. 犯罪の「匿名化」

暗号通信アプリや使い捨てSIMを使い、SNSで実行役を募集。**指示役と実行役が切り離された構造**になっています。

2. 短時間犯行の増加

侵入から逃走まで**わずか数分**で終わるケースもあり、映像が残っても特定に至らない場合があります。

3. 犯罪の広域化

遠征型犯行や匿名・流動型犯罪（＝トクリュウ）型犯罪集団など、犯行主体が多様化。**防犯が弱い住宅が広域的に狙われています**。

✦ 総じて侵入犯が狙うのは“入りやすい場所”。**管理が薄く見える環境**が標的になります。

4月、防犯を見直すべき5つの視点

環境が変わるタイミングこそ、防犯の再設計が必要です。

- 引っ越し前後の施錠・鍵管理の再確認
- 合鍵・暗証番号の見直し
- 長時間不在の可視化対策
- 「管理されている」印象づくり
- 住宅と車を一体で守る視点



防犯対策は、設備の追加だけではありません。“管理されている状態”をどう維持するかという視点が重要です。

Secualでは、住まいの防犯を「異常検知」だけでなく、日常の安心を可視化する仕組みとして設計しています。住宅と車を含めた生活導線全体を守るという発想が、これからの防犯には求められています。

防犯は「後から」では間に合わない

侵入件数の増加と検挙数の減少。

この変化は、防犯の前提が「個別対策」から「生活空間全体の防犯」へ変わりつつあることを示しています。

Secualでは、防犯に関わる企業として、住宅侵入の傾向や生活環境の変化を捉え、統計だけでは見えにくい兆候を現場視点とともに社会に共有していく役割があると考えています。

新生活が始まるこの季節、身の回りの安心を見つめ直すきっかけになれば幸いです。

――Secualはこれからも、住まいと資産を守る視点から、防犯を取り巻く変化を継続的に発信してまいります。